

8 章 学習のまとめ

この章で学習した内容をふり返ってみましょう。

標本調査

▶ p.236

ある集団全体の性質を正確に知るために、その集団のすべてについて調べることを全数調査という。

対象とする集団の一部分を調べ、その結果から、集団全体の性質を推定する調査を標本調査という。

次の㉖～㉙のうち、全数調査よりも標本調査に適しているものは ㉘ である。

- ㉖ 学校で行う身体測定
- ㉗ 線香花火の品質調査
- ㉘ 造幣局が行う貨幣の仕上りの検査
- ㉙

標本調査で、調査の対象となっているもとの集団を母集団といい、調査するために母集団から取り出した一部分を標本という。

ある新聞社は、国内の有権者の中から1000人を選び出して、世論調査を行った。この調査の母集団は 国内の有権者 で、標本は選び出した 1000人 である。

標本の取り出し方

▶ p.237

標本調査の目的は、母集団の性質を推定することであるから、標本は母集団の性質をよく表していなければならない。そのため、標本を取り出すときは、かたよりが生じないようにする必要がある。

母集団から標本をかたよりなく取り出すことを無作為に抽出するという。

ある共学の中学校の生徒570人で、好きなスポーツ選手について調べるため、標本調査を行うことにした。このとき、次の㉖～㉙のうち、標本の取り出し方として適切であるものは ㉘ である。

- ㉖ サッカーが好きな生徒の中から100人を選ぶ。
- ㉗ 男子生徒の中から100人を選ぶ。
- ㉘ くじ引きで100人を選ぶ。
- ㉙

標本の平均値と母集団の平均値の関係

▶ p.241

標本の大きさが大きいほど、標本の平均値は 母集団 の平均値に より近くなることが多い。

8章で見つけた ❶ をふり返って、学習感想をまとめてみましょう。

- わかったことやよかったこと
- 大切だと感じたことや気づいたこと
- さらに学習してみたいこと など

私たちが暮らしている社会で行われている調査には、全数調査と標本調査があることがわかった。

標本調査を行うときには、標本を無作為に抽出するための方法をしっかり考えなければいけないことがわかった。

身のまわりでの調査については、調査の対象や方法をきちんと理解して、調査の結果が本当に正しいといえるのか見定めることが大事だと思った。

